

Naomi Akimoto



秋本奈緒美76/45

SIDE 1

1. 光の伝説 (5'27")
2. 永い季節へ (3'39")
3. 十一月の風 (3'34")

SIDE 2

1. 昼下がり (4'55")
2. 熱帯夜 (3'31")
3. Long Summer Vacation (3'37")

歌：秋本奈緒美

作詞：秋本奈緒美
作曲・編曲：日向大介
ドラムス／風間幹也
ギター／野中英紀
キーボード、ベース
スティック・ベース
&ボーカル

／日向大介

レコード制作にあたって

「マニアを追い越せ大作戦」も会員の皆様の御支援のおかげで第26回目を迎える事が出来ました。

今回はニューウェーブ&ジャズの女性ボーカリストで、人気番組「オールナイト・フジ」の元司会者であった秋本奈緒美さんに登場していただきました。

秋本奈緒美さんは'82年から'84年までビクター音楽産業より7枚のアルバムを出し、新鮮なサウンドと感受性豊かな表現力で若者の新しいアイドルとなり、毎年全国の学園祭で30本をこえるコンサートをひらくほどの人気者になりました。

'86年東芝EMIに移籍し、1年9ヶ月ぶりに発表されたニューアルバム「ポートレート」は、全曲彼女自身の作詞で、作曲にはアメリカの注目すべきニューレーベル「ウ

ィングダム・ヒル」のアーティストでもある日向大介氏を迎え、ジャンルにとらわれることなく「さりげなく想いをこめて」制作されました。

又プロデュースも日向氏が担当し、秋本奈緒美さんのオリジナリティー豊かな独特のサウンドの魅力を十分に引き出したアルバムが完成しました。

このアルバム「ポートレート」の中より6曲を選び、45回転、ハイレベル・カッティングいたしました。

例によってイコライザー、リミッターなしのもの、中域を若干イコライザーでアップしたもの、低域を上げ、高域も少々アップしたものと何枚も何枚もラッカー盤を切り、ヒヤリングをくりかえした結果、音場感やボーカル、楽器の余韻の美しさ、雰囲気など総合して、テープのサウ

ンドそのもので、イコライザーやリミッターをかけないものが一番良いとの結論に達し、76cm/2トラックの音はまったく加工せず、そのままカッティングしました。アナログの持つなめらかで、ふくらみのある豊かな音をそこなうことなく、仕上ったのではないかと思います。ボーカルの入ったイージーリスニングのような秋本奈緒美さんの独自のサウンド感を楽しみ、又オーディオチェックに活用し、皆様の愛聴盤として末長くお聴きいただければ幸いです。

最後に東芝EMIのスタッフの方々との絶大なる御協力に深く感謝し厚くお礼申し上げます。



詞(ことば)が絵となり……

ここに1つのメッセージがある。これを音楽に乗せて表現したいノ―ロックン・ロールを考えた場合、その底流に息づいているものは、正にこうした心の叫びだと私は考えます。

現在23歳の秋本奈緒美にとっては、同年代の女性と同様、表現したいことが数限りなくあるようだし、また彼女はシンガーとして歌の世界でそれを果たしたいということもきわめて自然な発想でしょう。ここにお贈りする6曲の詞が、全て彼女の手によるものであるのを見ても、いかに彼女が自分の詞(ことば)を用いて自分の世界を築こうとしているのかが伝わって来ます。そして思わず「ロックン・ロールしてるネ!」と言えてしまう今の秋本奈緒美なのです。

今回のプロデュースをするにあたっては、こうした彼女のオリジナリティを大切にし、そしてそれを前面に押し出すことだけを考えて来しました。

さあ、目を閉じて耳を傾けて下さいノ

さり気なく BGM として聴かれるかも知れないこの音楽も、彼女のリリカルな世界に触れることが出来たなら、詞は絵となり、きっと素敵な景色とめぐり逢わせてくれることでしょう。

―プロデュースにあたって

日向 大介

〈秋本奈緒美プロフィール〉

- | | |
|--------------|--|
| 1963. 1. 13 | 長野県松本市で生まれる。 |
| 1982. 1. 21 | デビューアルバム "ROLLING 80'S" 発売。
ニューウェーブとジャズをフィックスした新しい音楽性が話題となり、彼女のビジュアル面でのキュートな魅力と相まって、以降、"学園祭の女王" として毎年30本以上のコンサートに招かれる程の人気を得る。 |
| 1982. 6. 21 | LP「ワンナイト・スタンド」発売。 |
| 1982. 12. 16 | LP「THE 20th ANNIVERSARY」発売。 |
| 1983. 4. 21 | EP「ビギニング」発売。
この時期よりレギュラー出演した「オールナイト・フジ」での司会役が好評を博し、彼女の人気を確実なものとする。 |
| 1983. 8. 21 | LP「FOUR SEASONS」発売。 |
| 1984. 2. 21 | LP「POISON 21」発売。 |
| 1984. 5. 21 | EP「ジェントルじゃいられない」発売。 |
| 1984. 8. 21 | LP「ACT13」発売。 |
| 1984. 12. 16 | LP「水彩画」発売。
その後、アメリカに渡る。 |
| 1986. 8. 22 | 東芝EMIへ移籍。1年9ヶ月ぶりのアルバム "ポートレート" 発売。
各方面から高い評価を得る。 |

ひなただいすけ

〈日向大介プロフィール〉

- | | |
|------------|--|
| 1956. 7. 2 | 東京で生まれる。 |
| 1973 | イギリスに1年、モーターサイクルのパーツ屋で働きながら、フォーク・ブルースのクラブに通う。 |
| 1977 | ボストン・パークリー音楽院に入学。ピアノを専攻。 |
| 1979 | 専攻を電子音楽に変え、1980年に卒業。C B S プロデューサーFrank QuinteroのRecordingに参加。1979～1982まで、自己のグループ"CAMERA"で、ブーズ、ライルズ、パークレー・パフォーマンス・センターで、ライブ活動を行う。
ボストンのR & Bプロデューサーでキーボードプレイヤーでも有名な、Frank Wilkins Projectにシンセシストとして参加。
シンセシストとして、Blue Jai Studio, Normandy Studio、などでも活躍する。 |
| 1981 | L・Aに移る。
アース・ウインド&ファイヤーのエンジニア、Robert Wolstein等と仕事をする。
シンセシストの活躍だけでなく、Robert Wolsteinとは、プロデューサー、ミキサーとしても活躍。
(Can Am Studio, Total Access Studio, Past Win Studio, Lioms Get Films, <M・G・M>, Ginger Bread Studio, |

- | | |
|------|--|
| | Village Recorder) |
| 1982 | Robert Wolstein を通し、George Massenburg, Ron Pendragon, Larry Dunn, Roland Batista, Win Davis Project, Dr. Terry Bozio, などとも交流を深める。
日本、アルバム・リリースのため帰国。
"インテリア" をアルファー・レコード (YENレーベル) より、リリース。(タイトル、グループ名とも同じ。) |
| 1983 | 2枚目の "インテリア" を発売。 |
| 1984 | ポリドールから発売されている、Blonx をプロデュース。 |
| 1985 | 結婚。渡米。
10月 野中英紀と "インテリアズ" を結成。 |
| 1986 | 2月3日 アメリカA & Mレコード (ウィンダム・ヒル・レーベル) より、"インテリアズ" リリース。(全米を始めとする各国)
2月25日 日本発売。
4月7日 ヨーロッパ発売。
秋本奈緒美 東芝EMI 移籍 初のアルバム制作。 |



曲の解説とききどころ

数年前ジャズ界ではブームといって良い程女性ボーカルの人気が高まったことがある。従来、ジャズ・ボーカルというと大人の歌というイメージが強かったが秋本奈緒美の登場によって若い世代の台頭が目立って増えたように思う。

デビュー後、作を追うことにポップ色が強まり人気を広め、全国大学生のアイドル的存在となったのが秋本奈緒美だ。

その人気の何割かは彼女が司会を務めていた人気TV番組「オールナイト・フジ」によってもたらされたものという気がしないでもない。しかし、ジャズを出発点としたアーティストがこれだけ広く支持されることは稀であり、それは彼女が魅力的であったからに他ならないだろう。

その人気がピークを迎えた頃に結婚し、2年近く沈黙を続けていた。そして、東芝EMIへ移籍し、その第一弾が、今年の8月にリリースされた「ポートレート」だ。このアルバムは実に1年9ヶ月ぶりの作品であり彼女のファンにとっては待ちに待ったといったところだろう。

従来の彼女の作品はいま一つ明確なコンセプトに欠けるような気がしたが、この作品は全曲が彼女自身の作詞で、作曲は日向大介と二人だけの手によるものだから彼女の新しい魅力や個性が最大限発揮されているといえるだろう。

今回のDAMオリジナル・ディスクは、その秋本奈緒美のニュー・アルバムからセレクトした6曲が収められており、オーディオ・ファンだけでなくポップス・ファンが楽しめる内容になっている。その上、例によってDレンジが広く、高SN比が得られる45回転、厚手ディスクなのだから聴きどころやチェックポイントが、さらに増えている。

*光の伝説

幻想的なイントロが始まっただけで、このディスクのクオリティの高さを痛感する。ローエンドまでスムーズに伸びたF特を有していて、オリジナルでは、ソフトな質感で音像の輪郭や切れがいま一つといった感がするキックドラムも実体感のあるサウンドで再現される。この辺りで低域の周波数特性とダンピングが判断できるはずだ。また、中高域も強調感がなく素直な質感の秋本奈緒美のボーカルが透明感のある音場空間に浮き上がり、ハイハット・シンバルの余韻もクリアーだがキメが細かく歪み感がまったく感じられない。そして、漂う様なシンセサイザーは後方に広がっているから、音場感のチェックにも適したトラックといえるだろう。

*永い季節へ

ゆったりとしたリズムに乗って恋の思い出を歌っているが、こうしたしっとりとした味は以前の彼女にはみられなかったところだ。

ドラムスとベースをセンターに配し、LchとRchにEキーボードとEギターのアルペジオを定位させたイントロはカートリッジなどのセパレーションをチェックするのに最適ではないだろうか。また、Rchにはパーカッションがちりばめられているが、この音がベースやキックドラムの音にマスクされるかどうかで分解能の高さが判断できるだろう。

*十一月の風

Side1のなかで、もっともビートが強調されたスケールの大きなサウンドが聴ける。楽器編成も多く、繰り返しの部分ではドラムスの連打などもあり、Side1でもっとも広いダイナミック・レンジが要求されるトラックといえるだろう。一般的なレコードではこうした曲は最内周へカッティングするのは避けるものなのだが、本アルバムでは曲数が少なく溝幅に余裕があるため鋭いピークの連続でも全く危なげなく再生される。スネアドラムやタムタム類の立ち上がりや抜けの良さが一つのポイントとなるだろう。また、ベースやキックドラムの厚みや重量感がどこまで再生できるかでシステム全体のグレードが判断できるはずだ。

*昼下がり

通奏低音風のベースとドラムに続いてEキーボードが加わり、イントロが奏でられる。ここで一音一音が完全に分離していればセパレーションは、まず問題はない。キーボードにはディレイやエコー、シフターなど色々な電氣的処理がされているが、その一つ一つが

クリアーに再生できれば高い解像力を有しているといえるだろう。

ささやくような彼女のボーカルが細身になったりハスキーさが強調されるなら中高域にキャラクターがあると考えられる。

*熱帯夜

ヘビーでタイトなビートのエキセントリックなナンバーだ。

Rchにはマリンバのような音色のEキーボードが配されているが、これで立ち上がりの良さを判断できる。センターには太いトーンのEベースとキックドラムが定位しているが、この両者がきっちり鳴らし分けられるかで低域のダンピング特性とアンプのドライブ能力の高さが確認できるだろう。

*Long Summer Vacation

本アルバムのなかで最も軽快で少女っぽい雰囲気を持ったナンバーだ。

ボーカルは優しさがあり明るい表情に満ちていて、エコーには透明感があれば高域のレスポンスや分解能に問題はないだろう。繰り返しのフレーズが多用されているが、サラリと歌っているので嫌味はない。また、弾むようなベースやドラムのリズムがいかに歯切れ良く再生されるかがポイントだ。さらに、パーカッション群やハンドクラッピングの存在感や粒立ちの良さもチェックポイントになるはずだ。

■ DAM/ハイクオリティ・レコードについて

最近のデジタル・オーディオ技術とその周辺技術の急速な進歩で、ビデオ・ディスク及びコンパクト・ディスク(CD)の開発技術によって得られた製盤の技術とノウハウを最大限に駆使し、従来のマスプロ的仕様とは性格の異なる、手作りのプロセスを経て制作されたものが今回のDAMレコードであります。

オーディオ・マニア諸氏はもちろんのこと、音楽ファンの皆様も年2回企画されているDAMレコードについては、常に新しい試みがなされ、前向きな姿勢で技術的テクニックとそのトーン・キャラクターを追求し、より忠実な音楽の再現を制作ポリシーとしている意図を理解していただいていることと思います。

そこで今回のハイクオリティ・レコードの特徴を述べてみます。

レコード(フラット・ディスク)形状

一般レコード形状は、音溝部を保護する為にレーベル部とレコード周縁部にグルーブガードをほどこして、音溝部が直接に接触しない様に厚くなっております。これが一方では、レコード再生条件や音質への影響を考慮した場合必ずしも望ましい形状では無いようです。

例えばa) グループガードの傾斜している溝部に再生針先が正規な溝壁面接触しないままトレースする為に、異状音の発生やノイズの発生原因となります。b) ピックアップを下す時ヘタをすると、針先が滑って音溝部までジャンプする事もキズの原因となります。c) ピックアップによっては、カートリッジの底がグルーブガードに接触することもあります。d) 音質への影響としては、断面形状から解るように、ターンテーブル・シートと音溝部の密着性が悪くなり、レコード個有共振を起こしやすい状態にあると云えます。

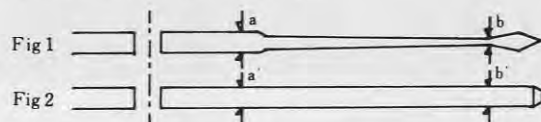


Fig 1 一般のレコード a-b=0.6[mm]

Fig 2 新フラットレコード(ディスク) a'-b'=0.2[mm]

御存知のようにステレオ音溝は、水平振幅は左右信号の和(L+R)、上下振幅は左右信号の差(L-R)として録音カッティングされており、特に本レコードのように通常のレコードより+5dB程もハイレベルでカッティングされた複雑な音溝の再生は、より以上のカートリッジの振動エネルギーでレコード盤を烈振させ、レコードの個有共振によって音質への影響が十分に考えられます。

共振はマスとコンプライアンスの積で表わされますから、レコードの個有共振はレコードを厚く重くすることでマス成分を増して共振を下げ、更にレコード平面均一性の精度を上げ、フラット面に形状変更することでターンテーブル・マットとの密着性を大幅に改善し、共振によるレコードとターンテーブル・マットとの間に起こるリアクションを緩和させる事を可能にしました。これにより今までに無いサウンド・キャラクターが得られ、特に中域から低域の分解能を一段とクリアーにして、そのナチュラルな響きはよりオリジナル・サウンドに近いものと確信しております。

ターンテーブル及びターンテーブル・マットの材質、形状によっても音質の変化があるように、レコード形状

質量によっても音質へ影響するファクターは充分考えられますが、今回のこのレコードは特に再生条件を考慮した上で新フラットプロフィールを採用致しました。

一般レコードとの比較

重量比	30%up
厚さ比	最厚部 15%up
	最薄部 65%up

更に偏心の要因の1つであるセンターホールとプレーヤーのセンターピンとのガタについて注目し、先ず市販プレーヤーのセンターピン寸法を調査してその結果でレコードのセンターホールの設計変更を行い、最小限ガタツキを減らす為にセンターホールの径を小さい方向に持って行きました。

■ クォーツ・ロック、厚手レコードについて

従来のシンクロナス・ダイレクト・モーターによる大振幅のカッティングでは、動的ワウ・フラッター(ダイナミック・ワウ)が少なからず音質に影響を及ぼしますが、今回の“DAM45”では、高精度にサーボされたクォーツ・ロックD.D.モーターとダイヤモンド・カッター針を採用することで、ディスク・マスタリング時に於けるクォリティーを高め、以前にまして余裕のある音溝巾と大振幅にたえられ、たっぷりとしたピッチとディプスがコントロールされるようになりました。

現在のレコードは再生系機能のグレード・アップに伴い、一段とDレンジ、Fレンジ、及びリニアリティ等、大幅に飛躍しています。振幅(P-P) 250μ~280μ、[L-R]、ピーク・レベル+20dB程度のものは数多く高密度レコード化しております。このような高密度レコードの溝波形を完全にトレーシングする為に再生時の技術的ノウハウ、及びそのテクニックがいろいろ考えられ、かすかずのオーディオ誌上でも論じられています。ヘッド・シェール、トーン・アームやターンテーブル・シートの共振問題等々……。たとえば、ターンテーブル・シートを例にとっても、ゴム、なめし皮、ガラス、金属等、変える毎にその音質の変化は確実に差があります。このように再生時の高忠実トレーシングはさまざまな問題が残されています。

それでは、ディスクそのものはどうかと考えますと、一時期、薄いレコードはプレスでの塩ビ成形性が良いとされ話題になりましたが、レコードを厚くする(質量を増す)ことでレコードの共振を下げ、更に再生時のレコードとターンテーブル・シートとの間に起る共振を緩和させることで、中音低域の分解能が一段とクリアーになり、特に深みの有る、伸びた重低音の再現とバランスされたダイナミックなパワー感を充分にお楽しみ下さい。

この種のレコードは、特に安定度の高い盤質が必要とされますが、従来からのプロフェッショナル・レコードで開発した材料をベースに、新タイプの配合剤、熱安定性効果の高い安定剤の組合せにより、一層ゲル化性の改善を図り、また更に新タイプ帯電防止剤による静電除去効果ともあいまって極めて安定度の高い、この厚手レコードが生まれ、リアリティの良いダイナミック・レンジをもつオリジナル・サウンドの再現を可能にしました。

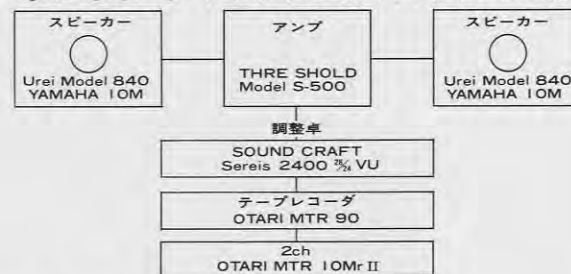
30センチ45回転レコードの取扱いについて

このレコードは、通常の33 $\frac{1}{3}$ 回転レコードと変った点はありませんが、念のため次のことに御注意下さい。

- (1)オートプレーヤー、オートチェンジャーでも使用出来ませんが、ある特殊なものでは完全な自動演奏が出来ないこともあります。このような場合、手動方式に切替えてお取扱い下さい。
- (2)回転が早くなるために、レコードの反りの影響が33 $\frac{1}{3}$ 回転にくらべて出やすくなります。レコードの保管、取扱いには充分注意をして下さい。
- (3)再生する部屋の温度が低いと、カートリッジが正しく作動しないことがありますのであらかじめ室温を15℃~20℃位に保って下さい。
- (4)再生時には特にアームのラテラル、インサイドフォースのバランス、及び再生針の摩耗状態、針圧(メーカー指定の重い方にセット)には充分気を付けて下さい。
- (5)このレコードは、ハイクオリティのオーディオ・チェック・レコードのため、カートリッジによってはトレースがむずかしい場合があります。

レコード材質——プロユース材料使用

ブロック・ダイアグラム(AVRスタジオ)



カッティング・データ

Cutting	: TOSHIBA-EMI Cutting Room
Cutting Date	: Sep. 24, 1986
Tape Recorder	: STUDER A80MKII (76cm/sec. 2ch)
Drive Amp.	: Neumann SAL-74B
Cutting Lathe	: Neumann VMS-80
Cutting Head	: Neumann SX-74
	Diamond Cutting Stylus
	Non Limiter
	Non Equalizer

スタッフ

プロデューサー	: 日向大介、平形忠司、小山正敏
ディレクター	: 甘楽正治、小林弘澄
ミキサー	: 日向大介、下川晴彦
カッティング・エンジニア	: 竹内昭五
デザイン	: 東芝EMI株 デザイン室
写真撮影	: 横須賀功光
録音場所	: AVR Recorders & TOSHIBA EMI 3 ST. (S61. 4~S61. 6)

企画	: DAM推進委員会 DAMPC
制作・製造	: 東芝EMI株式会社